

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

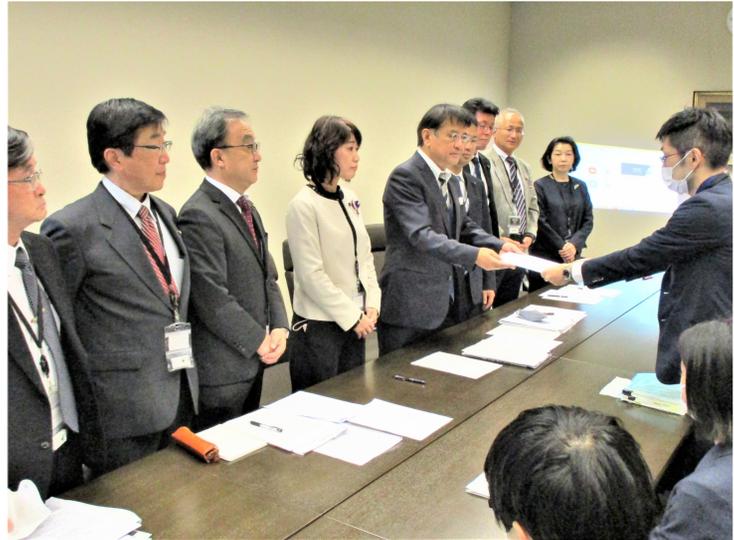
原発 コロナ対策 教育 農漁業 県民・市民の願い実現へ 党・県地方議員団が政府交渉

日本共産党島根県地方議員団は、17日各地域の住民要求を携えて上京、政府交渉を行

いました。尾村利成県議を団長に、大國県議、安来、江津、益田の各市議、奥出雲町議、松江から舟木けんじ、たちばなふみ両市議など10名が参加しました。

31項目を申入れたものです。仁比そうへい参院議員が駆け付けました。

力テストは子どもと教職員を競争に駆り立てている」と訴え、



政府交渉に臨む県議団、松江市議団ら

交渉は①原発問題、②江川の治水事業、③コロナ感染症対策の抜本的強化、④農業、内水面漁業の再生を求め、⑤競争的な教育を改めて教育環境改善を求めるなど8省庁に

「専門家の意見を聞き議論を深める、しっかりと検討する」等応えました。尾村県議やたちばなふみ市議らは「厳しく規制や監視を」「避難訓練は危険な想定とはかけ離れており、実効性が乏しい」など松江の実情を訴えました。

農水省、環境省に対して、たちばな市議は「安道湖・中

憲法を生かし、くらしと命を守る政治を

日本共産党 演説会

12/18(日) 10:00~

いのちまもる 政治を今こそ

松江テルサホール

日本共産党 参議院議員/党書記局長 小池あきら

わたしも話します 日本共産党 県議会議員 尾村としなり

海の内水面漁業の維持、水質の改善や中海漁業の再生への取組強化」「農地で太陽光発電を行うソーラーシェアリングへの支援」「ヌートリアなど有害鳥獣被害に対する対策」などについて地域の実情を訴え要望しました。

日本共産党 100周年



女性の議席受け継ぎ

母と子の願い 市政に届けて 元市議会議員 飯塚梯子

以来六十一年、学び、戦い、歩み続けてきました。

小学校三年まで分校の複式学級、四年生になると本校まで片道八キロの通学。

早苗さんの女性の議席を引き継いで松江市議会に送り出していたら六期二十年(合併で二年短縮)、

な僻地でも、近江絹糸紡績に就職した姉が帰省の折に話す近江絹糸争議のことは、

皆さんに支えられて議員として働くことができました。

社会や政治への関心を高めました。三井・三池炭鉱の闘い、六十年安保闘争の息吹に触れ日本共産党に入り、

まだ結婚退職などが残っていて、女性が働き続ける事は大変な時代、保育所は足りない、学童保育所はゼロ、要求はいっぱいでした。

中でも、放課後の子どもたちの生活に悩む親たちと「子どもたちに豊かな放課後を」と全国の運動から学び、市内の殆どの保育園の協力を得て、映画、講演、年長児を持つ親へのアンケートなど必死に取り組みました。

なかなか理解してくれない行政、待ちきれず夏休みの学童保育を自主開設しました。

資金づくりに苦勞の連続でした。平日の学童保育が必要という止むにやまれぬ要求から、川津小学校区に父母の手による自主学童クラブを開設、それをきっかけに城北、大庭と次々にひろ

がり七校区に及びました。こうした運動の中に、まだ無名だった小林よし子さんの子連れ姿がありました。

「無かったらつくろしか

ない」という親たちの度胸と連帯で切り開いた運動、

当時県庁所在市に公的学童保育がないのは長崎市と松江市という状況でした。市

が学童保育に着手して希望者は殺到、どんなに切実な願いであったかということ

です。

地域や地方議会になくはない存在として働き、

一〇〇年の歴史を刻んできた日本共産党。これからも皆さんと共に、私も歩み続けます。

(出雲市見々久町出身、1942年生まれ、新日本婦人の会松江支部事務局長を経て松江市議に)

